

論壇

気軽に1人分という需要

先日、あるビジネスセミナーで興味深い話を聞いた。ネスプレッソというカセット型のコーヒーをご存じだろうか。小さなカセットの中にコーヒーの粉が入っていて、それを機械に挿入してスイッチを入れれば、1杯分のおいしいコーヒーができる。私のオフィスにも1台ある。ネスプレッソがネスレという大手のコーヒーメーカーの成功事例として紹介されたのだ。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

もコーヒーが飲めるようにコーヒーを入れるコーヒーメーカー。ネスレ社の以前の主力商品であったネスカフェのようなインスタントコーヒー。そして味にこだわる人は自分でドリップするだろう。こうした多様なコーヒーの入れ方がある中で、最近になってカセ

「单身世帯」の急増に注目

ット式のコーヒーが伸びているのはなぜだろうか。セミナーの講師によると、世界的な单身世帯化がこの流れを後押ししているという。ネスレはこの商品を40年以上も前から出しているようだが、最近になって売り上げが伸びている。单身世帯の人が気軽に1人分

だけのおいしいコーヒーを飲みたいというニーズをうまく取り込んだということだろう。ネスレに限らず世界の多くの企業が、单身世帯が急増していることに注目している。日本でも全世帯の約35%が单身世帯である。未婚化や高齢者の1人世帯の増大がその背景にある。单身世帯ではな

べき姿としては、单身世帯が増えることをそのまま受け入れることではないのだろうか。考える人も多いうだろう。家族の絆が強いことが好ましい面は多々ある。单身世帯が増えれば、家族の絆によって社会を支えていくことがより難しくなるからだ。そうは言っても、非婚を選ぶ若者が増え、高齢者の单身世帯が増えていくという流れを変えていくことはなかなか難しい。そこで家族以外の形で人々の絆を強めていくことが重要となる。

隣人との絆強化が論点に

最近、いろいろなところで聞く話だが、お酒を飲むこと、たばこを吸うこと、そして友達や家族がいないこと、この三つの中で寿命を短くする要因では、友達や家族がいないことがもっとも大きいという。禁酒や禁煙をするよりも家族や友達との時間をより多く持つことの方が健康には重要であるというところらしい。

人間は社会的動物であるので、こうした指摘はもっともだと思ふ。だからこそ、单身世帯の増加が人々の孤立につながるようだと大問題である。单身世帯の人々にとっては日常的に接する隣人や友人の存在が非常に重要なこととなる。ここに地域社会のあるべき姿が問われることになる。少子高齢化の中で地域活性化のあるべき姿が論じられることが少なくないが、隣人との絆をどう強化していくのかということが重要な論点となるべきだ。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。